

授業アドバイスシート

【中学校国語①】

◇ 目的に応じて文章を読み、必要な内容を捉える学習を取り入れましょう。

実態

- 国語Bの設問1三において、「『天地無用』という言葉が誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く」という問いに対して、正答率は全設問中最も低い15.9%でした。必要な内容の一部を捉えて解答した生徒の割合は43.0%、必要な内容を捉えることなく解答している生徒の割合は33.8%でした。

対策

- ① 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解するよう指導しましょう。
- ② 段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を正しく押さえたりしながら、更に大きなまとまりごとに文章全体における役割を捉えるよう指導しましょう。

目的に応じて文章を読み、必要な内容を捉えることができていない、もしくはその一部を捉えることはできているが、文章の構成や展開を踏まえ、必要かつ十分な内容を捉えることができていないと考えられます。

そこで、平成23年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B²で使用した「古生物学におけるネズミ」を読み、必要な内容を捉える学習を提案します。示された問いの答えを考えたり、どのようにしてその答えにたどり着いたのかを考えたりすることで、必要な内容を過不足なく捉える力を身に付けさせましょう。

<ポイント>

- ・目的に応じて説明的な文章を読み、文章の構成や展開に留意して必要な内容を捉える。

◇目的に応じて文章を読み、必要な内容を捉える学習を取り入れましょう。

取組例 説明的な文章を読み、必要な内容を捉えよう（第3学年）

授業前の教師の準備

B1三についての生徒の生徒の解答の状況を「解答類型」（平成30年度 報告書 中学校 国語）に照らして把握する。特に、以下の「解答類型」の生徒の解答の状況に着目する。

○「解答類型2」、「解答類型3」の生徒

目的に応じて、文章の内容の一部を捉えることはできているが、文章の構成や展開を踏まえ、必要かつ十分な内容を捉えることができていない。

○「解答類型99」の生徒

目的に応じて文章を読み、必要な内容を捉えることができていない。

第1時

① 学習の見通しをもつ。

二つの問いを示すので、それぞれの答えを文章中から見つけましょう。



② 一つめの問いを把握する。

【問いの例】ネズミ類の歯の化石はどのようにして発掘するか。

【答え】・土壌や河川にたまった砂や泥などの堆積物を採取し、ふるいにかける。

・顕微鏡を使って残留物の中から歯の化石を拾い出す。

③ 問いの答えを見付けるための手掛かりになる箇所に印を付けながら、各自で文章を読む。

④ 見つけた答えを書くとともに、どのようにしてその答えにたどり着いたのかを書く。

⑤ ④で書いた内容について、グループで検討する。

「次のような方法をとる」の後に、「まず、…」と「次に、…」とあるので、答えは二つあるんじゃないかな。

③ それでは、ネズミ類の歯の化石はどのようにして発掘するのだろうか。大型動物の場合、堆積物の中から直接化石を発掘することができる。しかし、この方法で発掘するには、ネズミ類の歯の化石は、あまりにも小さい。そこで、次のような方法をとる。まず、土壌や河川にたまった砂や泥などの堆積物を採取し、ふるいにかける。ネズミ類の歯の化石は泥よりは大きいので、砂粒とともにふるいの上に残留する。次に、顕微鏡を使って残留物の中から歯の化石を拾い出す。この方法によって標本数が増え、どんな種類のネズミが、どの時代に生存し、どのような生態系に属していたのかを探ることが可能になった。

第1時終了時の教師の分析

第1時終了時に、ワークシートの記述内容を分析する。

授業前に把握した「解答類型2」、「解答類型3」や「解答類型99」に該当する生徒が、次の観点についてできているかどうかを見る。

○ 必要かつ十分な内容を取り出している。

○ 内容を取り出す際の着目点を明らかにしている。

第1時終了時に不十分だった生徒については、第2時の問いに取り組む様子を観察し、必要に応じて支援する。

第2時

6 二つめの問いについて②から⑤に取り組む。

【問いの例】動物の歯の化石を比較することでどのようなことが分かるか。

【答え】その動物の属する種やグループと、その生物の進化の過程や生息分布。

【二つめの問いの答え】

- ・ その動物の属する種やグループ
- ・ その生物の進化の過程や生息分布

どのようにしてその答えにたどり着いたのか。

(1) どの段落に着目したのかそれはなぜか。

- ・ 4, 5 段落
- ・ 3 段落はネズミ類の歯について述べているだけだが、4, 5 段落では動物の歯の化石を比較している。

(2) 答えにたどり着くまでに、(1)の他にどのような内容や言葉に着目して、どう判断したのか。

・ 「……比較することで……が分かる」

というような書き方に着目した。

・ 5 段落の中に「……比較すると……」

とあるが、これはオナガネズミのことだけなので答えではない。

④ このことは、ネズミ類に限ったことではない。動物の歯の形態は種によって異なるため、その形態をつぶさに観察し比較することで、その動物の属する種やグループを判断することができる。歯の形態がまったく同じであれば同じ種であると分かり、異なっても似ていれば、同じグループに属する種であると考えることができる。例えば、私たちヒトの歯の形はサルに似ている。しかし、サルの犬歯はヒトの犬歯よりも鋭く大きい。だから、サルはヒトと同じグループに属していても、異なる種であると分かる。ネズミ類の場合、発見される化石のほとんどは歯であるため、歯の形態で種を区別するという方法は特に重要である。

⑤ この知識を応用し、違う時代の同じグループ内の種を比較することで、その生物の進化の過程や生息分布を調べることができる。現存するネズミ類で説明すると、例えば、現在のオナガネズミの歯のかみ合わせ面と約三五〇万年前のオナガネズミの歯のそれとを比較すると、現在のオナガネズミの歯は真ん中が盛り上がり、より複雑な形になったことが分かる。……

7 学習を振り返る。

アイデア例～活用のポイント

- ここに示した【問いの例】の他にも、複数の問いが考えられるので、必要に応じて取り上げるとよい。

<参照> 平成30年度授業アイデア例（国立教育政策研究所教育課程研究センター）

～文章を読み、必要な内容を捉えよう～

年 組 番 氏名 ()

【一つめの問い】

【二つめの問い】

- ① マンモスや恐竜などの骨を博物館で観察したことはあるだろうか。これらの動物は既に絶滅しているにもかかわらず、まるで今にもよみがえりそうな姿で生き生きと復元されている。これは、絶滅した生物を分類し、その生態や進化の過程を明らかにする古生物学という学問の研究成果の一つである。マンモスや恐竜のような大型動物の場合、数万年から数億年という時間を経ても、骨の化石が比較的よい状態で発見される。しかし、小型動物の場合、堆積物に埋没する過程で分解されて、骨はほとんど残らない。
- ② 骨が残っていないとすると、小型動物の一つであるネズミ類は何によって研究されているのだろうか。実は、ネズミ類は、歯の化石によって研究されている。歯は体の中で最も硬い組織であるため、化石として保存されやすいからである。
- ③ それでは、ネズミ類の歯の化石はどのようにして発掘するのだろうか。大型動物の場合、堆積物の中から直接化石を発掘することができる。しかし、この方法で発掘するには、ネズミ類の歯の化石は、あまりにも小さい。そこで、次のような方法をとる。まず、土壌や河川にたまった砂や泥などの堆積物を採取し、ふるいにかける。ネズミ類の歯の化石は泥よりは大きいので、砂粒とともにふるいの上に残留する。次に、顕微鏡を使って残留物の中から歯の化石を拾い出す。この方法によって標本数が増え、どんな種類のネズミが、どの時代に生存し、どのような生態系に属していたのかを探ることが可能になった。
- ④ このことは、ネズミ類に限ったことではない。動物の歯の形態は種によって異なるため、その形態をつぶさに観察し比較することで、その動物の属する種やグループを判断することができる。歯の形態がまったく同じであれば同じ種であると分かり、異なっているように似ていれば、同じグループに属する種であると考えられる。例えば、私たちヒトの歯の形はサルに似ている。しかし、サルの犬歯はヒトの犬歯よりも鋭く大きい。だから、サルはヒトと同じグループに属していても、異なる種であると分かる。ネズミ類の場合、発見される化石のほとんどは歯であるため、歯の形態で種を区別するという方法は特に重要である。
- ⑤ この知識を応用し、違う時代の同じグループ内の種を比較することで、その生物の進化の過程や生息分布を調べることができる。現存するネズミ類で説明すると、例えば、現在のオナガネズミの歯のかみ合わせ面と約三五〇〇万年前のオナガネズミの歯のそれとを比較すると、現在のオナガネズミの歯は真ん中が盛り上がり、より複雑な形になったことが分かる。この事実は、オナガネズミがより効果的に食べ物を細かく砕けるように進化したことを示している。このような形態の特徴を古い時代から新しい時代に向かって丹念に追っていくことで、時間とともに生物がどのように変化したのかを明らかにすることができる。また、違う場所から出てきた歯の化石が、同じグループに属すると決定できれば、その生物が生息していた範囲が分かる。
- ⑥ ネズミ類の歯の化石は、博物館で展示されているマンモスや恐竜の骨のようなかっこよさはない。しかしながら、複雑で多様なネズミ類の歯の一つ一つは、進化というジグソーパズルの大事なピースとなるのである。



【一つめの問いの答え】

【二つめの問いの答え】

どのようにしてその答えにたどり着いたのか。

(1) どの段落に着目したのか。それはなぜか。

(2) 答えにたどり着くまでに、(1)の他にどのような内容や言葉に着目して、どう判断したのか。

どのようにしてその答えにたどり着いたのか。

(1) どの段落に着目したのか。それはなぜか。

(2) 答えにたどり着くまでに、(1)の他にどのような内容や言葉に着目して、どう判断したのか。

授業アドバイスシート

【中学校国語②】

◇ 文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く学習を取り入れましょう。

実態

○ 国語 A の設問 8 四 2 において、「『心を打たれた』を文末に用いた一文を、主語を明らかにし『誰（何）』の『どのようなこと』に『心を打たれた』のかが分かるように書く」という問いに対して、正答率は 26.8% でした。「心を打たれる」という言葉の意味は理解できており（設問 8 四 1 の正答率は 95.0%）、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書くことはできていますが、「心を打たれた」の主語を明確にして書くという条件を満たさないで解答した生徒の割合は 59.7% でした。

対策

- ① 文の成分の順序や、主語・述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるように書くことができているかを常に吟味するよう指導しましょう。
- ② 「書くこと」の学習との関連を図り、推敲の際の観点の一つとして取り入れてみましょう。

文の中における主語を捉えたり、主語を明示しながら適切に表現したりすることに課題があると考えられます。

そこで、職場体験のお礼状について推敲し、適切な文章に書きかえるという学習を提案します。今回課題が見られた主語・述語の照応をはじめ、語の順序や敬語表現など、推敲する際のポイントを明確にし、その観点に基づいて検討することで、目的に応じた適切な文章を書く力を身に付けさせましょう。

<ポイント>

- ・文の成分の順序や照応などに注意して、伝えたいことが相手に適切に伝わるように書く。

◇文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く学習を取り入れましょう。

取組例 推敲して適切な文章に直そう（第2学年）

学習の流れ

職場体験のお礼状を推敲して適切な文章に書きかえる学習を行います。



① 推敲する際のポイントを確認する。

- 主語と述語との関係
- 修飾と被修飾との関係
- 仮名遣いや漢字の使い方
- 文末表現（常体と敬体など）
- 並立の言葉の使い方（「Aしたり、Bしたり」など）
- 一文の長さ
- 敬語の使い方
- など

② 文章の中で、どのように直せばよいか、グループで検討する。

「本当に」という言葉は、この位置でいいのかな。

「私の将来の夢は、消防士です」という文の主語と述語の関係はどうなっているのかな。

（後付けは省略）

敬具

拝啓
すがすがしい秋晴れが続いています。〇〇消防署の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。……（中略）……
実際に業務を体験し、消防士のお仕事の大変さがよく分かった。□□さんが、消化活動だけでなく、厳しい訓練をしたり、消防設備の点検も、すべて地域に住む人たちの命や生活を守ることに繋がっていると話してくれたことが印象に残っています。私の将来の夢は、消防士です。さらにその気持ちは強くなりました。本当に、今回は、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。九月も終わりに近ずき、ようやく朝夕は涼しくなってきました。皆様お体を大切になさってください。

「消防士のお仕事の大変さがよく分かった」という文だけ、文末表現が他と違うよ。

「□□さんが、……と話してくれた」という表現は、相手に対して失礼なんじゃないかな。

他にもないかな。

③ 実際に文章を書き直す。

アイデア例～活用のポイント

- 職場体験や総合的な学習でお世話になった方へのお礼状など、学校や学年・学級の教育活動と連携させて行うとよい。

授業アドバイスシート

【中学校国語③】

◇ 多様な語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う学習を取り入れましょう。

実態

- 国語 A の設問 8 三工において、「適切な語句を選択する（彼はせきを切ったように話し始めた）」という問いの正答率は 27.0% でした。「くうを切る」という誤答を選択した生徒の割合は 38.7%、「水気を切る」という誤答を選択した生徒の割合は 23.7% でした。

対策

- ① 語句の意味を辞書や資料集などを用いて確認するだけでなく、話や文章の中で実際に使用するよう指導しましょう。
- ② 取り上げようとする語句について、他に適切な表現がないかを考えたり、複数の語句を並べてどれが最もふさわしい表現かを検討したりしましょう。

「せきを切る」という言葉になじみがなく、意味が理解できていないものと考えられます。また、「くうを切る」の意味や用法を正しく捉え、文脈に即して適切に使ったり、「水気を切る」、「紙を切る」という表現の意味を踏まえて適切に使ったりすることに課題があると考えられます。

そこで、自分なりの「語彙手帳」を作り、書き留めた様々な言葉を実際の場面で使う学習を提案します。各教科等の学習や生活の様々な場面で出会った「気になる言葉」や「使いたいと思った言葉」などを継続的に書き留めるとともに、どのような言葉を書いたのかや実際にどのように使ったかなどについて交流することを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることをねらいとします。

<ポイント>

- ・「語彙手帳」を作り、書き留めた様々な言葉を実際どのように使ったかなどについて交流することを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。

◇多様な語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う学習を取り入れましょう。

取組例 自分だけの「語彙手帳」を基に、言葉を使いこなそう（第1学年）

第1時

① 学習の見通しをもつ。



各自で「語彙手帳」を作り、書き留めた言葉を実際に使うという学習をします。次に示すように、用意したノートには<基本の項目>を盛り込んで書きましょう。各自の工夫で項目を追加しても構いません。各教科等の学習や生活の様々な場面で出合った言葉を自由に書き留めるとともに、これからの国語科をはじめとする各教科等の学習などで役立ちそうな言葉を書き留めることも意識してみましょう。

提示する「語彙手帳」の項目の例

- <基本の項目>
- 出合った言葉
- 書き留めた日付
- 出合った場面や出典等
- 書き留めた理由 など
- <各自の工夫で追加する項目の例>
- 言葉の意味や例文
- 類義語や対義語 など

提示する「国語科の学習の予定（第1学年）」の例

- 5月 詩を創作しよう
- 6月 学級新聞の記事を書く
- 7月 調べたことについてスピーチをしよう
- ⋮
- 10月 読んだ本を紹介し合おう
- 11月 話し合いで考えを深める
- ⋮
- など

② どのような言葉を書き留めるのかについてイメージをもつ。



初めて知った言葉や、聞いたことはあるけど意味がよく分からない言葉、自分も使いたいと思った言葉など、次に示した例を参考にしながら、どのような言葉があるかについて、現時点で思い付くものをグループで交流してみましょう。

〔提示する内容の例〕

新聞や雑誌、
読んだ本等から
「快進撃」など



テレビのニュースや
日常会話等から
「仮に…だとしたら」など



国語科の授業から
「思慮深い」など



他教科等の授業から
「色彩」など



③ 今後の「語彙手帳」の活用の仕方について確認する。

- 各自で継続的に言葉を書き留める。
- 書き留めた言葉の中から、各教科等の学習や生活の様々な場面で使えるものがあったら意識的に使う。

ポイント

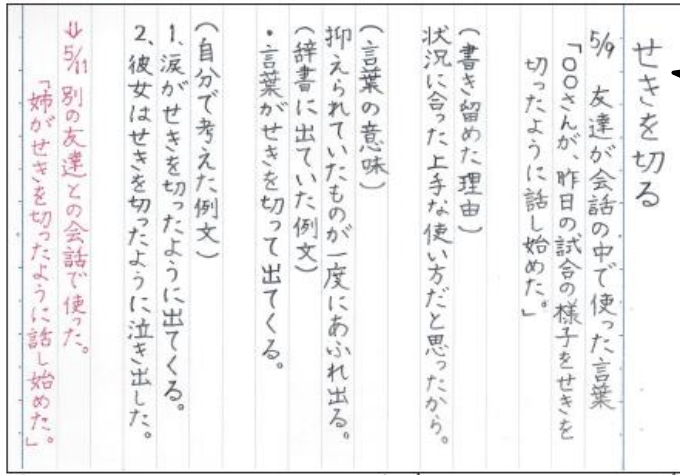
第2時

※ 第1時と第2時の間に一定の期間を置くなどの工夫をする。

④ 「語彙手帳」に書き留めた言葉や書き方の工夫などについてグループで交流する。

グループで交流した際、自分の「語彙手帳」に載せたいと思った言葉を書き留めておく。

〔Aさんの「語彙手帳」の例〕



私は、「せきを切る」という言葉について、言葉の意味を調べるだけでなく、いくつか例文を考えたよ。

Aさんのように、例文を書いておくと、実際にこの言葉を使うときに役に立つと思うよ。また、実際に使った場面を記録するというのは、私も参考にしたいな。

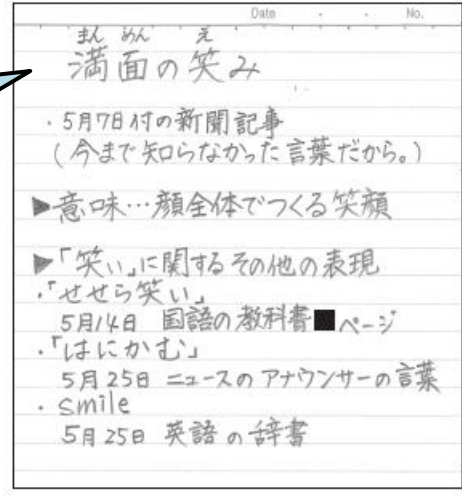
追加した項目

基本の項目

私は、「満面の笑み」という言葉が気になったよ。「笑い」を表す言葉には他にどのようなものがあるのか、意識して書き留めておいたけれど、他にもまだまだたくさんありそうな気がするな。

Bさんのように、関連する言葉を集めるのもいいね。そういえば今読んでいる本の中に「ほほえみ」という言葉があったな。

〔Bさんの「語彙手帳」の例〕



基本の項目

追加した項目

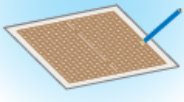
⑤ 「語彙手帳」を基に、実際に使った言葉や今後使えそうな言葉について、グループで交流する。

〔交流で出された内容の例〕

「姉がせきを切ったように話し始めた。」と友達との会話の中で使った。



特別活動で体育祭を振り返る文章を書く際に、「満面の笑み」という言葉を使った。



音楽科の教科書に載っていた歌詞の中の「さまよう」という言葉を書き留めて、国語科の詩を書く学習のときに使った。



国語科の学習で行うスピーチの準備で、「一杯努力する様子」を伝えるための言葉を探しているのだけれど、以前書き留めた「奮闘」という言葉が使えそうだ。



これからも、「語彙手帳」が活用しやすくなるように自分なりの工夫を重ねたり、書き留めた言葉を目的や必要に応じて使ったりしていきましょう。

国語の授業の中の帯学習として位置付け、書き留めた言葉について1、2人ずつ発表する。

アイデア例～活用のポイント

- 「語彙手帳」を継続的に活用することができるように、第2時で示した④、⑤の学習を定期的に行うとよい。その際、ことわざや慣用句に着目させるなど、生徒の実態に応じた意図的な指導も大切である。

<参照> 平成30年度授業アイデア例 (国立教育政策研究所教育課程研究センター)